

企業名： マネーフォワード (3994)

レポート名： Forward Map 2022

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。統合報告書を一読すれば、この会社の理念あるいは実現目標が、社名にも入っている Forward という単語に集約されていることが良くわかる。社会に新しい価値を提供する役ではなく、効率化や解決案の提示などサポートに徹する役回りを引き受けることで、人々ひいては社会のギアアップを担う存在を目指している。これはロジック的にも理解できるし、応援したいという意味でも理解できるものだ。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。10年前という、かなり早い段階からこの分野に焦点を当ててビジネスを展開してきたという時間的優位にともなって、会社集団としての経験が積み上げられており、独自の Culture を醸成するに至っている。そしてそれを大事にし、新入社員の間にも浸透させようと努力しており、集団としてのアイデンティティを確立することができそう。そして最も着眼すべき点が、積極的な M&A の実施である。報告書にも記載がある通り、合理的な買収合併がもたらすシナジー効果は近年の同社の成長に直結している。また、企業間にとどまらず、市民の間で一定の知名度を獲得しているビジネスが存在している点もこれからの事業展開を後押しするはずだ。十分に大きく成長が見込まれる市場の中であって、同社の競争優位性は理解できるものである。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。事業規模の大きさがもたらす優位性と集団としてのアイデンティティの確立、また積極的な人材育成が、競争優位性に持続力を与えらると思う。ただし、プログラミング商売で新規参入しやすい業界であるから、特許の獲得など含めて、油断のない努力を心掛ければいけない。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

わからない。同社が繰り返す Culture が自分にあっているのかどうか次第だ。しかし、あった場合には、とてもよい環境だと思う。同社は人材教育を重視しており、社員の特性

も様々だという。20代で重役を任されている例も見受けられ、既成の大企業にはない勢いの中で刺激を受けながら仕事に向き合うことができそうだ。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

統合報告書の読み手が、そもそも企業のサービス内容や業態をある程度理解しているだろうという点を考慮すると、改善点はほとんど思いつかない。主力のサービスについて、より具体的に記載があれば、同社を知らなかった人にとって理解がより深まると思う。また、一部にSDGsと紐づけて説明されている箇所が見受けられたが、SDGsに肯定的な読み手に対しては、ある種の、強迫観念的な共感を期待できるものの、否定的な読み手からのマイナスイメージにつながりかねないため、控えめな表記にするのも検討してもらいたい。